

はるかぜ 7月号

ネットワーク

Vol.275
平成 30 年 6 月 29 日発行



春から夏は学びのスタート時期 理事長&院長 外部講演の記録

プチ健康サポート隊 食中毒注意報	4
スタンプラリーはじめました	5
小規模・看護小規模活動日記 他	6~7
第 230 回 春風狂句	8
介護負担割合証が届きます	9
サ高住だより 杏の収穫	10
ちょっと得する栄養情報	11
心を磨く 美化委員	12



◆ お知らせ・ニュース ◆

- ・7月 1日(日) 杏心の丘が開設4周年を迎えます。
- ・7月 4日(水) 14:00~はるかぜホールにて第88回おりひめの会が開催されます。
- ・7月 7日(土) 清田院長が東京出張のため12時半から不在となります。
- ・7月 20日(金) 19:00~黒髪幼愛園にて院長が講演を行います。

☆ 今月号から読者の皆さんの希望で、試験的にネットワークの製本(中綴じ)をしていません。
製本済みの冊子をご希望の方は受付またはお近くのスタッフまでお申し出ください。

(写真掲載につきましては、ご本人・ご家族のご了承を得ています)

理事長 & 院長 外部講演の記録

新年度・新学期がスタートする4月から夏にかけては、新しい学びがスタートする時期。学校で、会社で、またプライベートでも、さまざまな学びの場に足を運ぶ人が増えます。

この時期は理事長・院長も多数の講演依頼を受け、あちこちで講演を行う機会が増えます。今回は、4～6月の講演の記録をまとめました。

2018年4月18日

熊商同窓会有志の会例会 「認知症について考える」

春日クリニックを受診されている患者さんから推薦をいただき、4月18日、清田理事長が熊商同窓会有志の会の例会で認知症をテーマに講義を行いました。

認知症については、テレビや雑誌、新聞でもたくさん取り上げられていますが、多くの認知症患者さんを診ている医師から直接話を聞く機会というのはめったにありません。今回は少人数の勉強会ということで、制度のことやさまざまな実例について、笑いも交えながらの和やかな講義となりました。

「わかりやすかった」「笑いの中にも身につまされる多くの事例がありとても役に立った」「夫婦や家族の在り方、関係などを見直さなければ」などたくさんの感想をいただきました。



2018年5月11日、18日 熊本大学にて
「医療現場からのメッセージ」

毎年恒例となっている熊本大学学生に向けた講義（教養教育）が5月11日、18日の両日に行われました。現代社会と地域医療という科目の講義で、テーマは「医療現場からのメッセージ」。今回も医療系学部のみならず、様々な学部からの参加があり、これまで以上に多くの生徒が受講していました。

「かかりつけ医」「地域包括ケア」「在宅医療」「看取り」などのキーワードとともに、当院で実際に行っている地域医療のとりくみや今後の医療のあり方など、専門的になりがちな内容を分かりやすい事例を交えながら話した清田理事長。学生も真剣に聞き入っていました。



めまぐるしく変動していく制度の中で、これからを担う若い世代にとって「今をどう生きるかで未来は変えていける」という前向きなメッセージが、これからの人生において何かヒントになればと思います。



